

史跡メモ

古河水系

安德橋

まる た はし
丸太橋と東隈への堰

ちゅう
仲への堰

ふるこう か
古河に架かる橋

なる み はし
鳴水橋

至 那珂川へ

安德橋

まる た はし
丸太橋と東隈への堰

古河に架かる橋

なる み はし
鳴水橋

至那珂川へ

史跡メモ

こぶの口水系

取水口ー① こぶの口

安徳台東側ふもとを流れる
堰ー① 堰ー②

うそん^{ちん}谷への上り口にある
堰ー③^{しゅうかん} (過益堰)

安徳^{うんだ}論田の水車小屋跡

論田の堰

安徳の天神社

おいまつ
追松

十一面観音・聖観音^{しょうくわんのん}
(那珂川八十八ヶ所73番札所)

東隈への堰

やく・^{たににぎしよし}神社・猿田彦大神・常夜灯
・大日如來・石碑3基
・田神社跡(現人神社へ合祀^{ごうし})

六地藏(5ヶ所)

なる み ばし
鳴海橋

至 現人橋

取水口一⑪ こぶの口

安徳台東側ふもとを流れる

A horizontal beam is supported by a central vertical support. A downward force, represented by a vertical arrow pointing down, is applied to the center of the beam. The beam is labeled with $r-b$ below it.

堰一③ (週益堰)

安徳論田の水車小屋跡

論田の堰

安徳の天神社

おいまつ
追松

しょうかんのん
十一面観音・聖観音
(那珂川八十八ヶ所73番札所)

東隈への堰

・厄神社・猿田彦大神・常夜灯
だいにちによらい
 ・大日如来・石碑3基
こうし
 ・田神社跡（現人神社へ合祀）

六地藏(5ヶ所)

鳴海橋なるみばし

至 現人橋

井堰ヱ上げ水は一氣に走り
田を次々に満たして下る

信子

この水路と平行する道路の分岐点を北へ行くと、「仲」の現人神社に向かいます。「仲」と「東隈」の境に安徳橋から流れ込む「古河」が流れています。「古河」は「裂田溝」の支流で、途中に「丸太橋」が架かり、東隈への取水堰が設けられています。取水された水は「沖の溝」を流れ、東側一帯の田んぼへ運ばれて行きます。昔東隈は水害の多いところでした。那珂川は西隈あたりで氾濫し、堤防が決壊すると水は「追松」から道を越し安徳との境である大土手の下を通り、「古河」からあふれた水と合流して、一気に集落を襲いました。現人神社へ行く道の東側を「屋敷下」と言いますが、度々浸水したので、東隈の人達は、ここを通称「水洗」と呼んでいたそうです。

東隈を流れる水路の西側一帯は古屋敷といわれ、「厄神社」が祀られています。境内には、常夜灯・猿田彦大神・大日如来・石碑3基があり、現人神社に合祀されている「田神社」も昔はここに祀られていました。

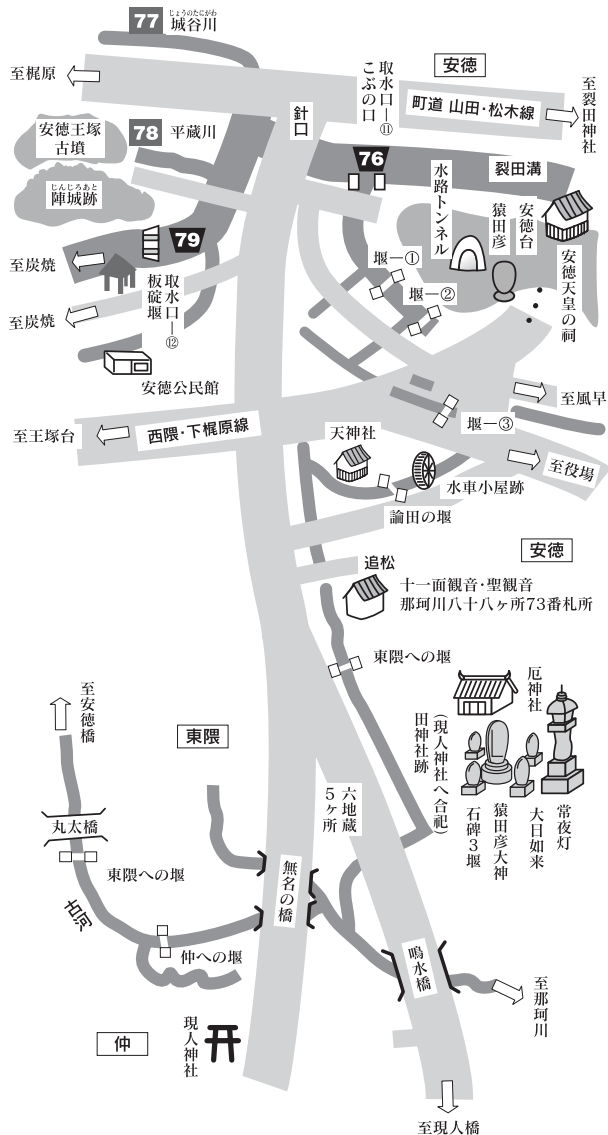
東隈には、古くから「六地藏」があります。五軒の家で一体ずつお祀りされていますが、なぜかもう一体の消息が分かっています。六地藏祭りが近づくとき、子ども達はお供え用の「古石や砂」を川から拾ってきてきれいに洗い、祭りの朝、皆でお参りして拾った「古石や砂」をお供えします。こんな微笑ましい行事が、今も子ども達によつて受け継がれています。

水路は、この先の四つ角を東へ曲り、三叉路に出る手前をさらに西へと曲がり、「古河」へ合流します。「こぶの口」から取水された溝の水は、巡り巡つて「古河」と合流し、さらに「鳴水橋」から那珂川へと流れ込みます。

昔、東隈の村中に水車小屋があったと聞きましたが、詳しいことが分かりません。ご存知の人がいましたら、ご一報をお願いします。

次号は安徳の板碇堰周辺を紹介します。

東隣には、古くから「六地藏」が
あります。五軒の家で一体ずつお祀り
されていますが、なぜかもう一体の
消息が分かっていません。六地藏祭
りが近づくと、子ども達はお供え用
の「ご石や砂」を川から拾ってきて
きれいに洗い、祭りの朝、皆でお参
りして拾った「ご石や砂」をお供え
します。こんな微笑ましい行事が、
今も子ども達によって受け継がれ
ています。



『^{おいまつ}追松』昭和33年(1958)頃
 広大な田園風景の中にそびえる大松の姿は安徳の歴史を伝える象徴でした。幾世代にも渡って守り継がれてきた松の大樹は朽ち、現在は「ムク木」が大きく成長し観音堂を守るかのようにどっしりと根を張っています。
 観音堂は西谷の女性たちでお世話されています。

針口の三叉路の手前に、裂田溝の取水口「こぶの口」があります。ここは、「ハンドル式巻き上げ」堰で、分水された水は「中溝」^{なかつち}を流れ、安徳台東側の山裾に沿って東隈へと流れています。「こぶの口」は、昔は水けんかになるほどの重要な所で、勝手に川幅を広げたり、杭を打ち変えたりすることはできませんでした。上流で水量を操作されると、下流域の田んぼへの影響が大きいので、各水利組合が協議のうえ、厳しい水管理が行われていたからです。現在は宅地化が進み、松本・今光では農家を営む人が少なくなつたため、昔のような水争いはなくなつたそうです。5月下旬になると、いよいよ田植の準備が始まります。東隈の農家の人が全員集合し、水路の清掃「溝公役」^{みづこうやく}が

探し出すことができずに、ここに来た証拠として「松」を植えて立ち去ったと言う謂れから、この地名が付いたそうです。

また、ここには那珂川88カ所73番札所があり「十一面観音・聖観音」が祀られています。この観音様は50年位前、「西谷」から引き越しをされる時、牛に引かせて「追松」まで来るど、どうしたことが牛が座り込んで動こうとしません。困ってしまい観音様を信仰されている人に尋ねると「観音様が、水が良いところだからここにいたいと言われている」と答えられたので、ここにお祀りするようになったそうです。近年水質検査をした結果「飲んで良し」「温泉にも良し」の水質であることが分かりました。

が行われます。「中溝」水路には板堰が1カ所設けられ、次の転倒堰からは水路が北東に流れ、堰③「週益堰」へ入ります。

この堰から水路がさらに2方向に別れ、一方は安徳字「前」の田へ、もう一方は西隈・下梶原線の道路下を横切り北側へと流れます。ここには「巻き上げ堰」があります。昔「とくそう」と呼ばれた水車小屋に「一斗搗きの白が2つあって、水路の水が多いときだけ動いていたそうです。この東側を「論田」と言い、安徳の「天神社」が祀られています。水路はこの先で北へ曲り、東隈集落へと流れます。水路の西側は、安徳の「追松」です。「追松」は、平安時代「安徳天皇」を追ってきた源氏の武士が天皇を探し出すことができずに、ここに来た証拠として「松」を植えて立ち去ったと言う謂れから、この地名が付いたそうです。



やくじんじや
厄神社
大水で流される前は現在地より後方の那珂川
寄りに建っていました。お堂内には珍しい題材
の絵馬が奉納されており、12月17日の「火焚
きごもり」はこの境内で行われます。



古河は裂田溝の安徳橋が起点です。丸太橋は古河が改修される以前からあり、その名の通り木の丸太を横倒しにして並べただけだったそうです。東隈への堰から「沖の溝」水路へ取水されます。



ここに「とくぞう」と呼ばれた水車が終戦後までありました。安徳うそ^{なん}谷の農家が共同で使用し、早良の石釜から買ってきた石粉と玄米とまぜコットンコットンと時間をかけて搗きあがった米はとてもおいしかったそうです。



東隈の「六地藏」祭りが7月23日に行われました。中ノ島公園で拾った「ご石」と「砂」を洗って乾燥させ、祭りの朝お地藏様にお供えます。



東限の溝公役
東限の農家総出で「中溝水路」の清掃が行われます。公役の範囲は「こぶの口」から東限間です。田植が終わると伝統の伏見神社へのお参りや、楽しい「さなぼり」の行事が待っています。